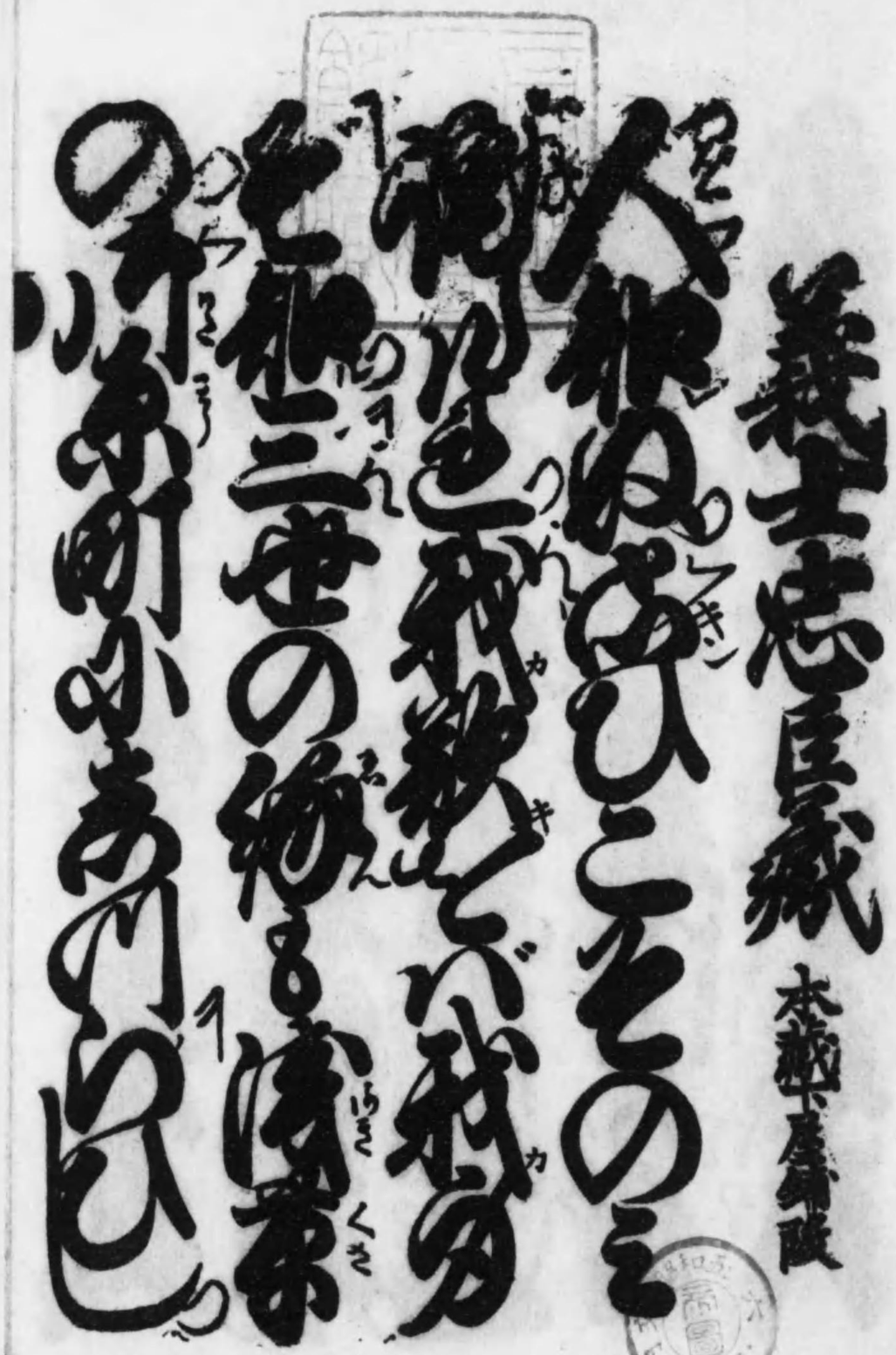
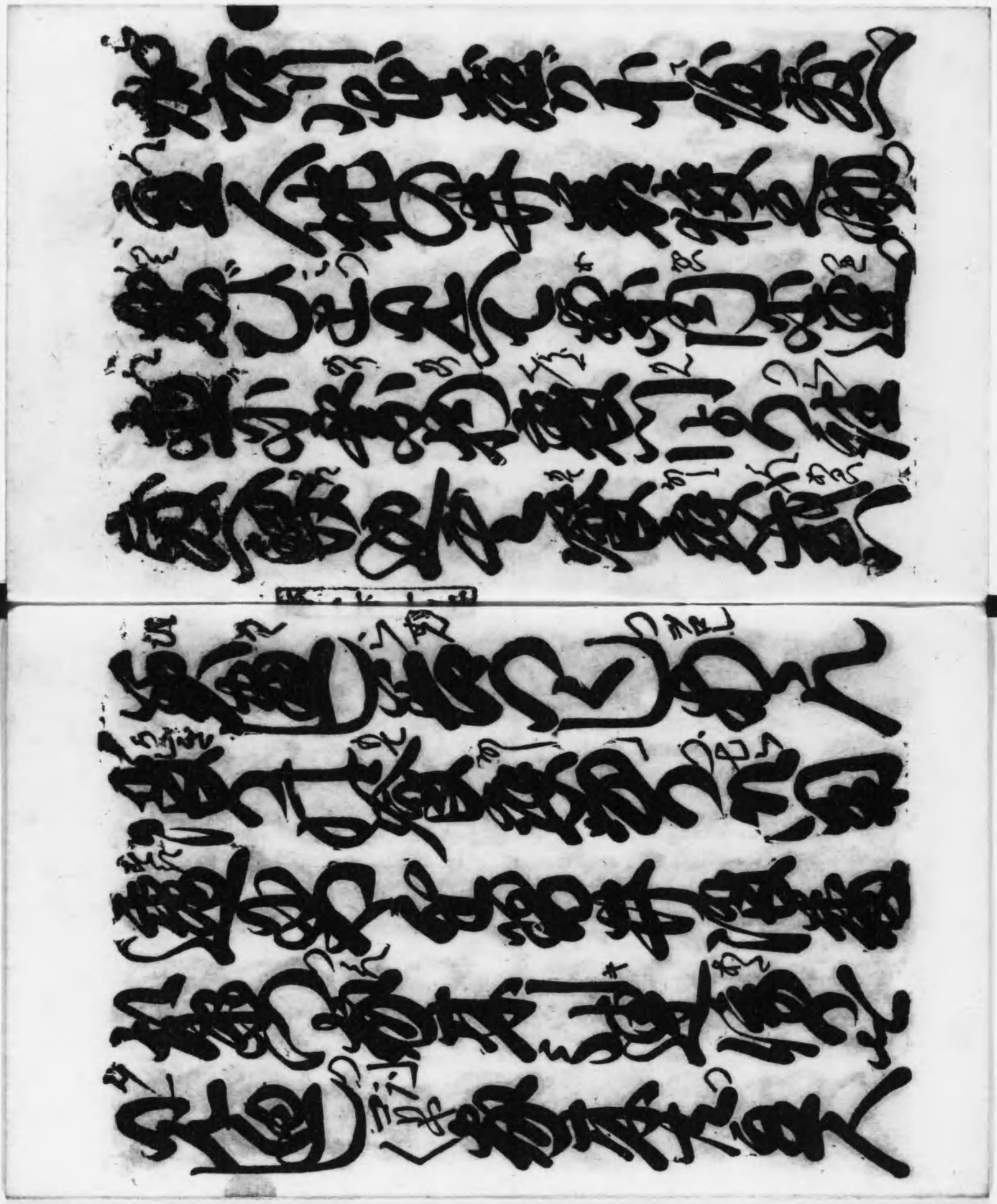
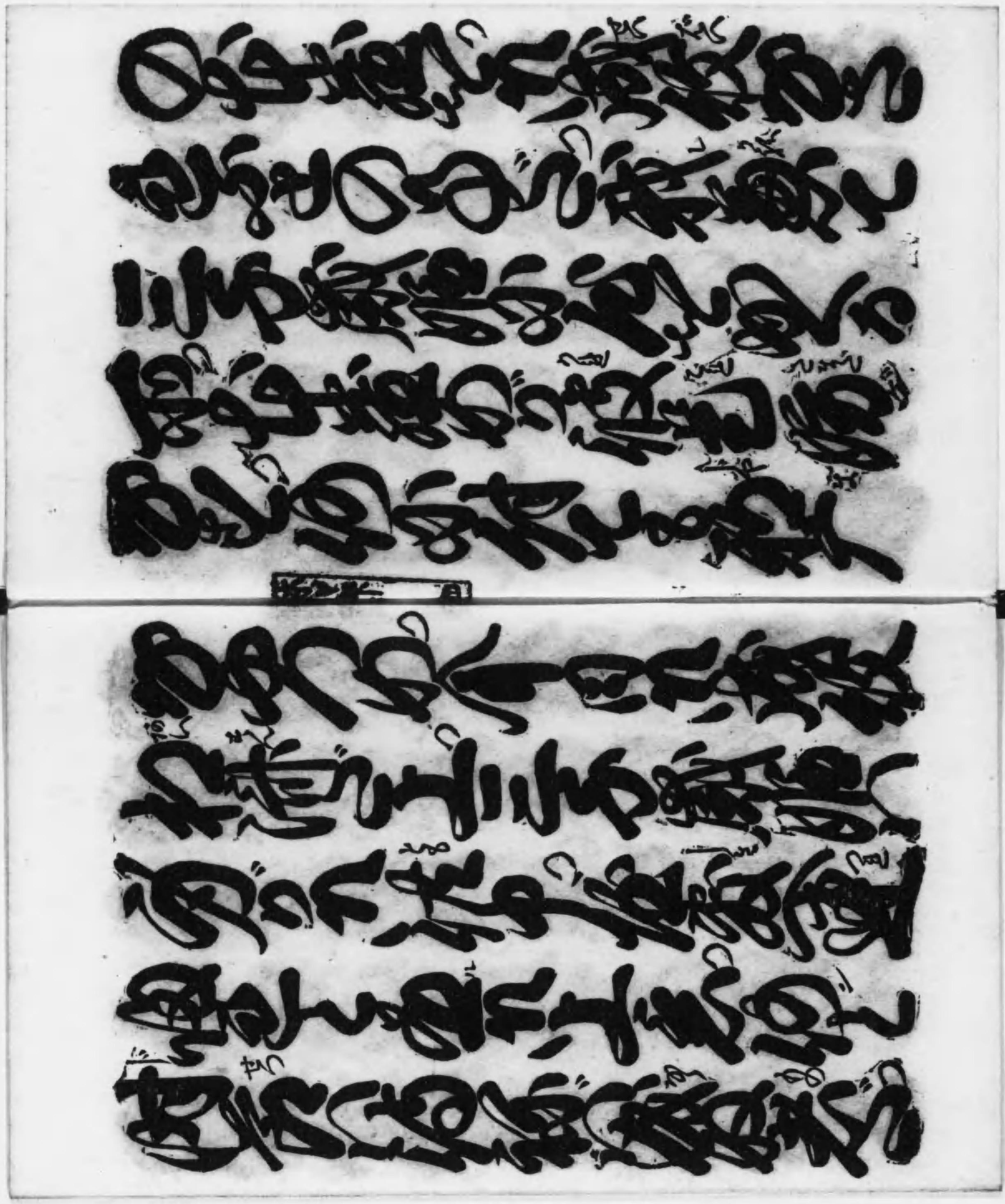
331
89
409

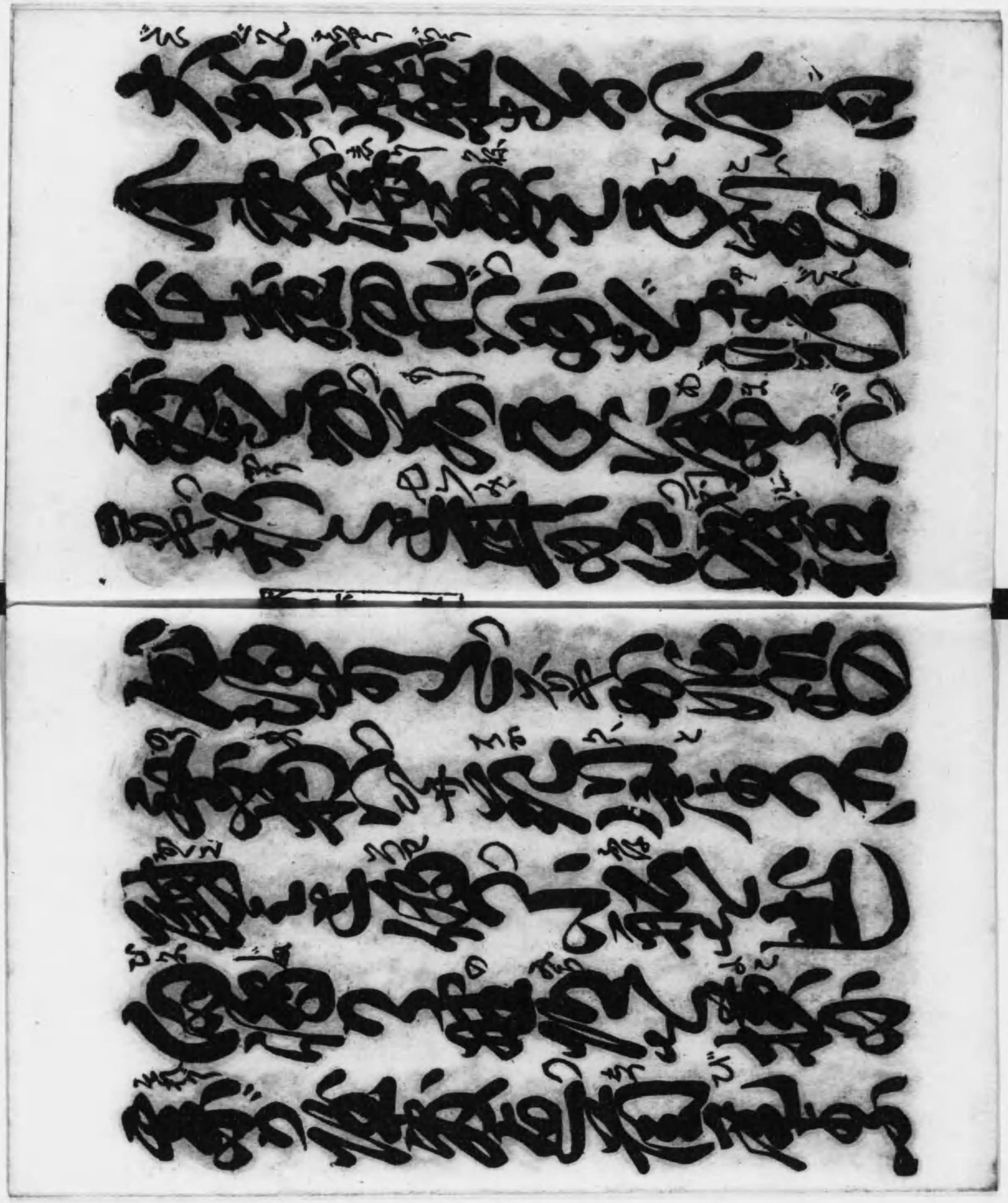
特261
489

義士忠臣藏　本藏豊政



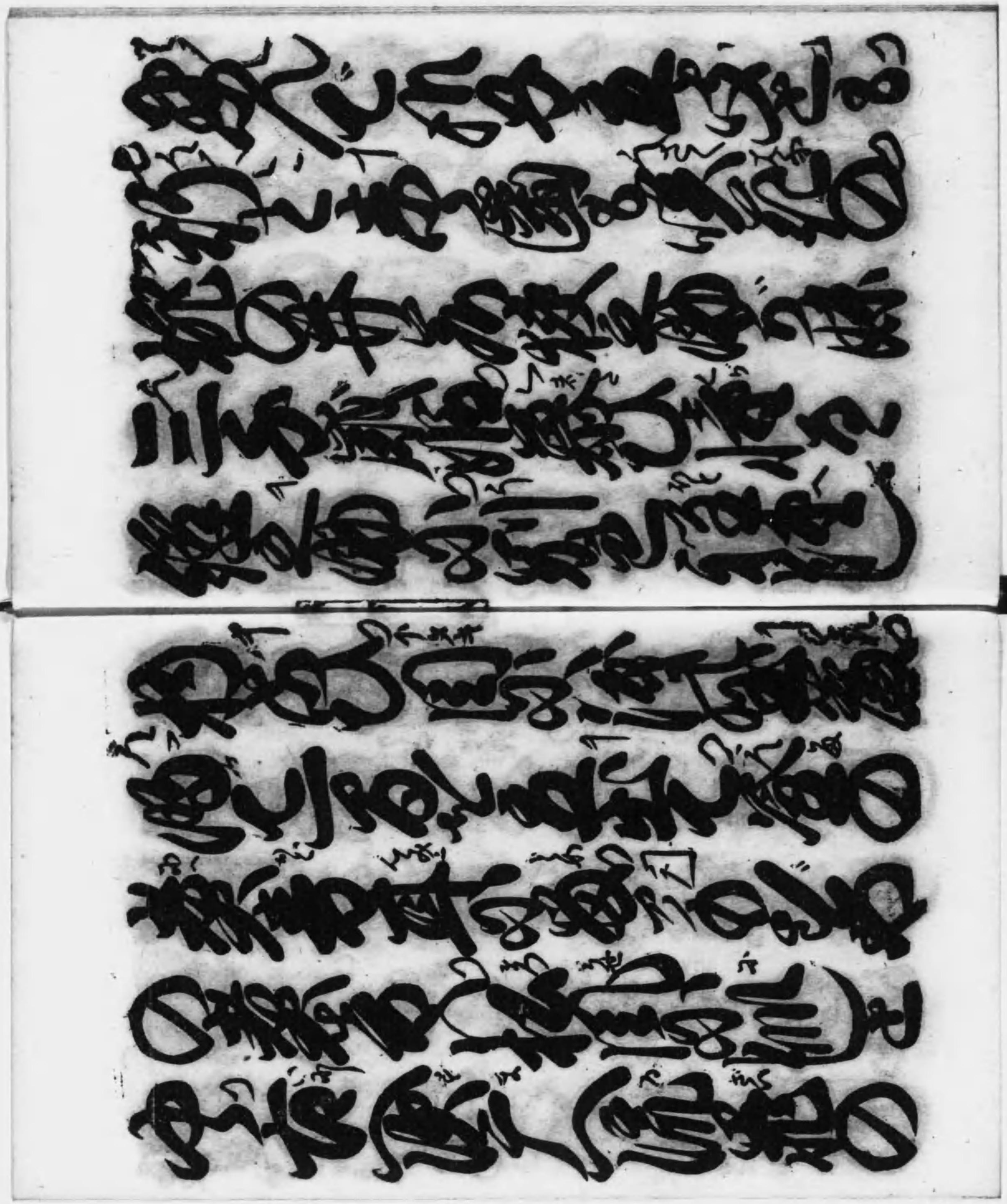


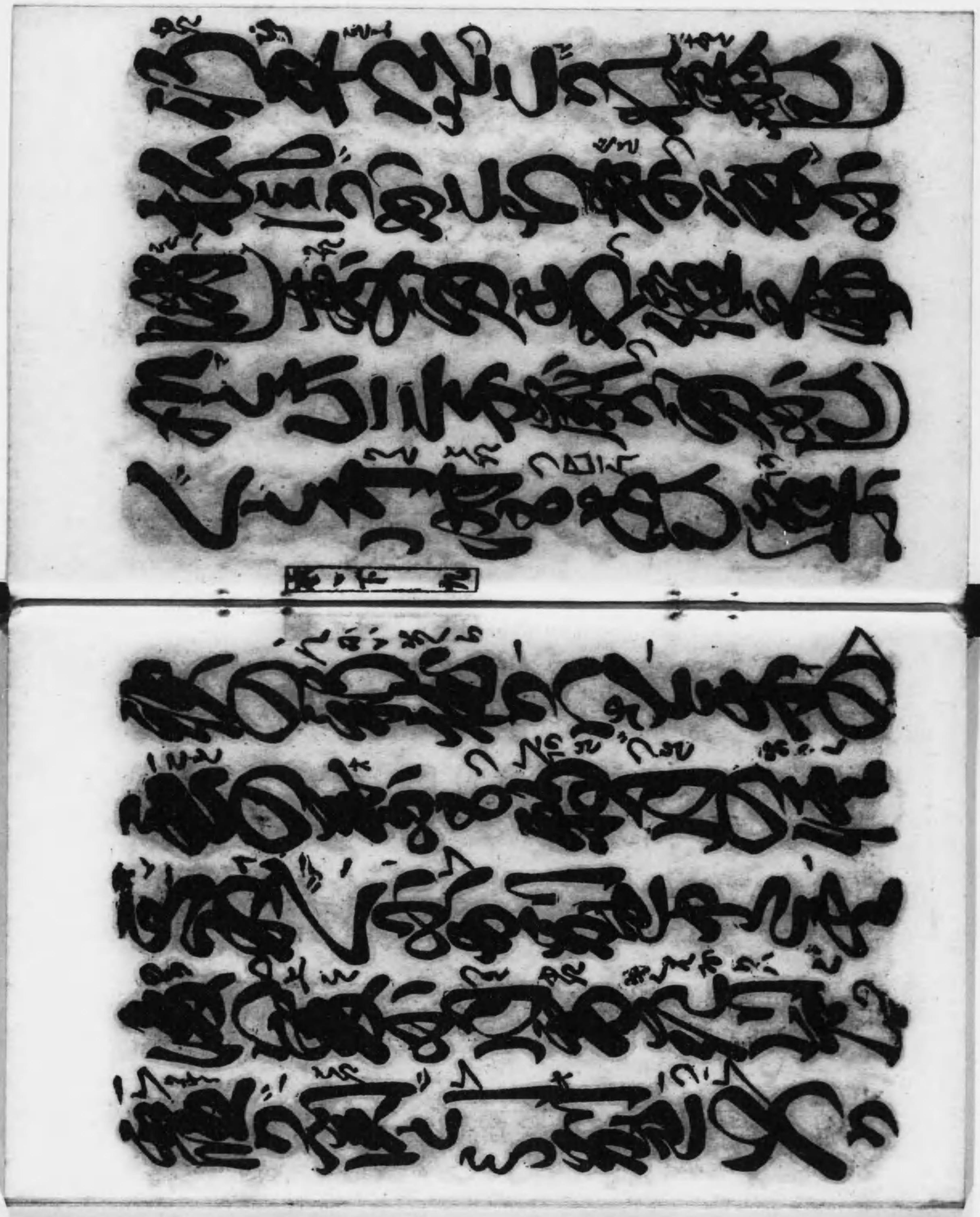


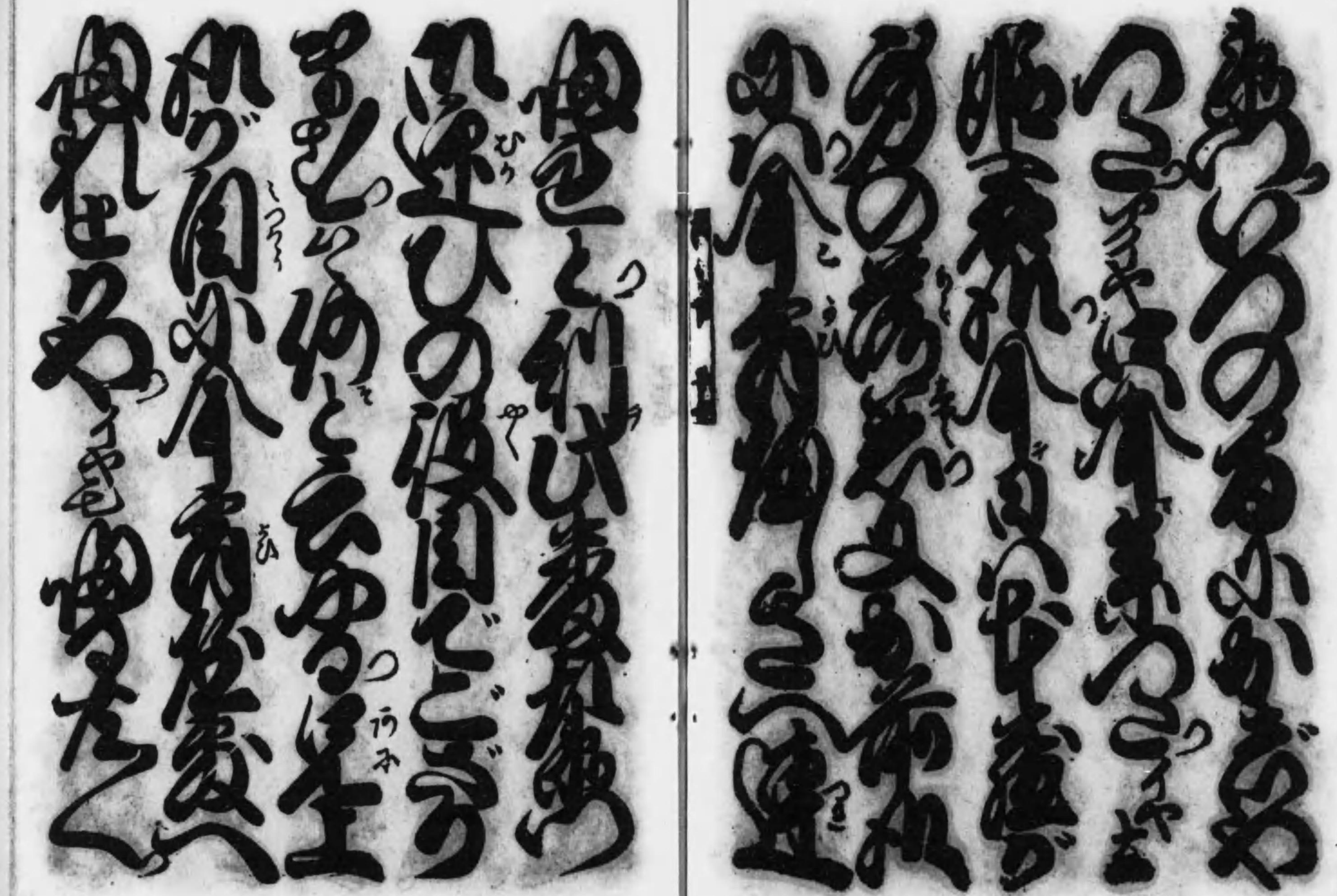


[illegible]

[illegible]

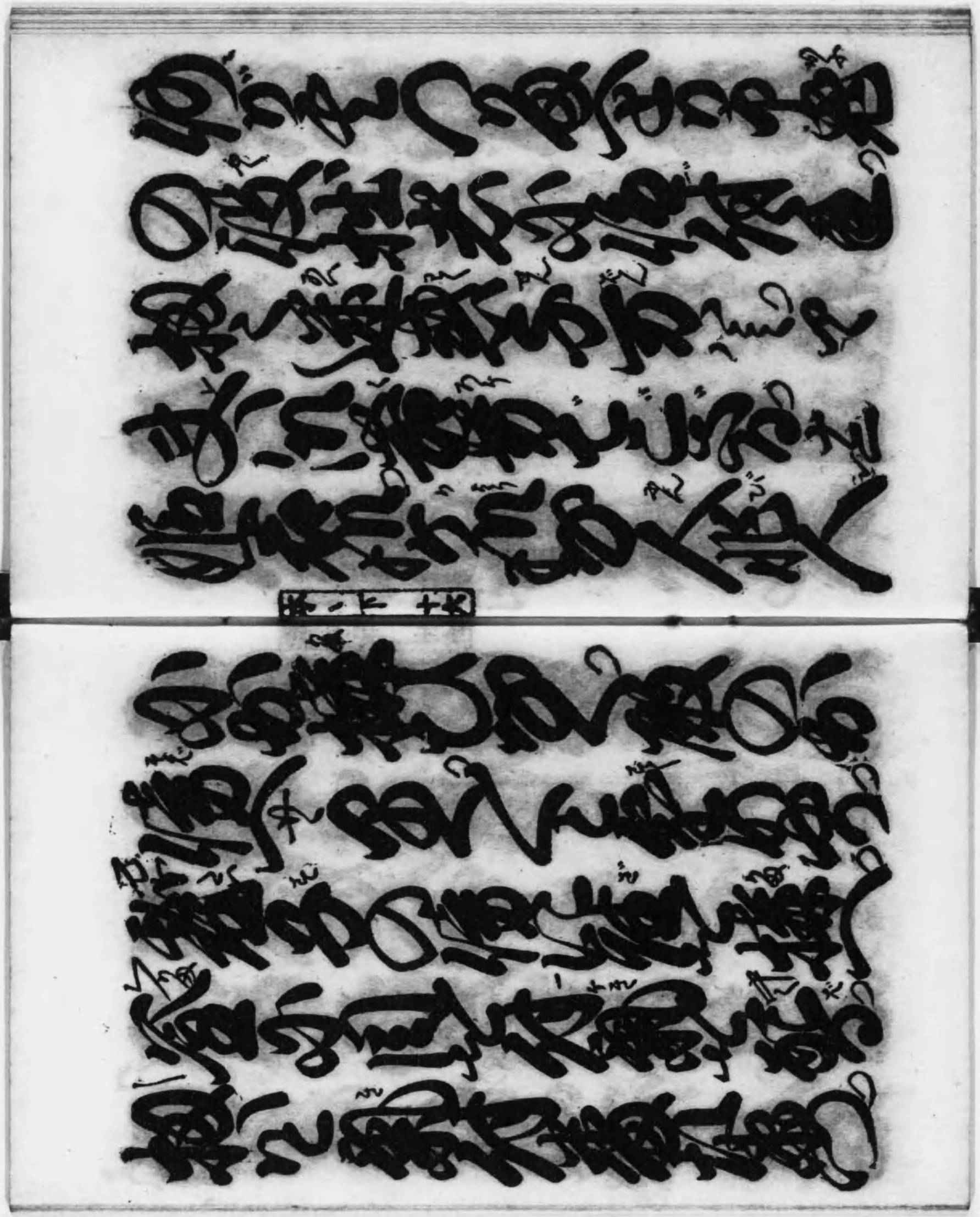




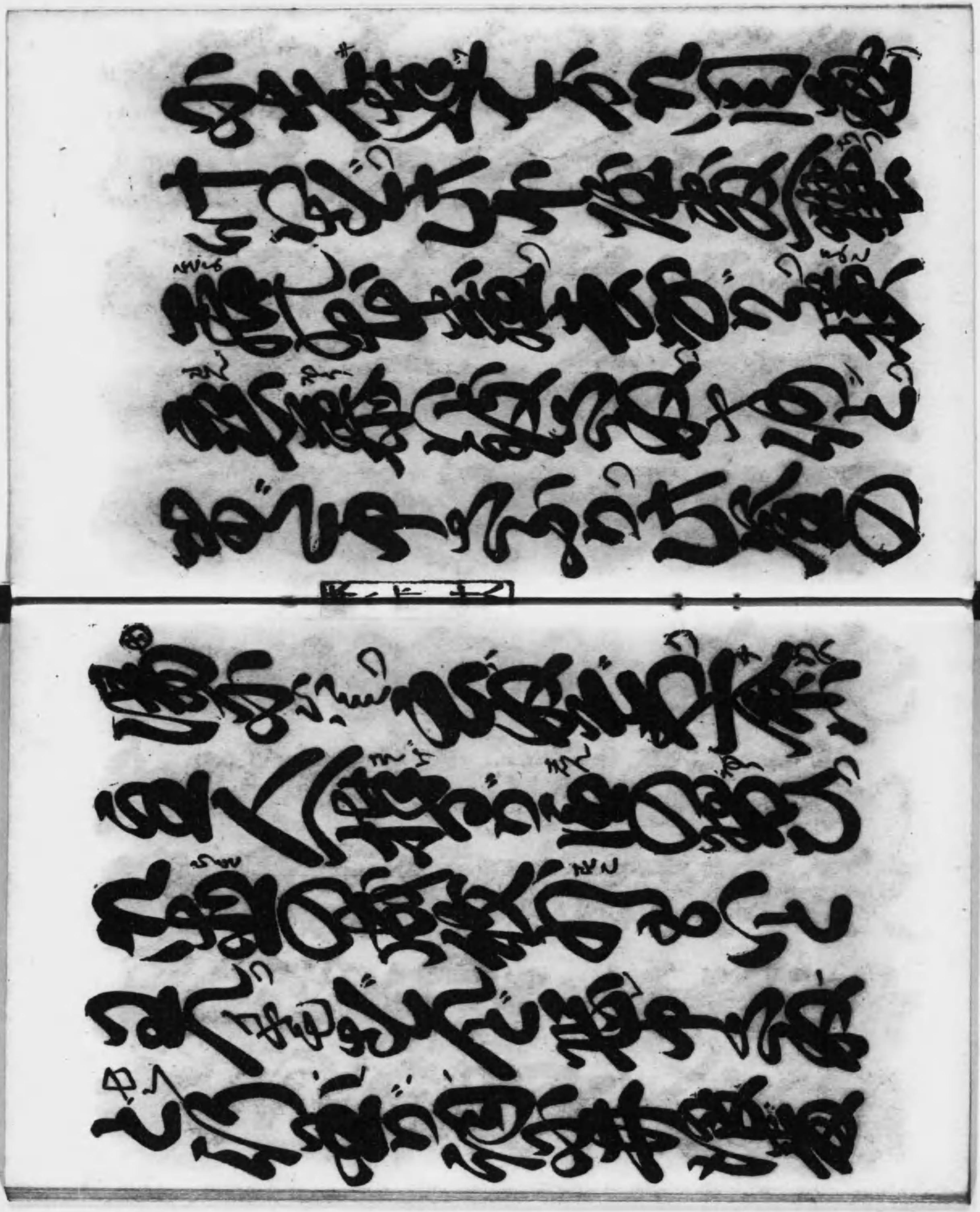


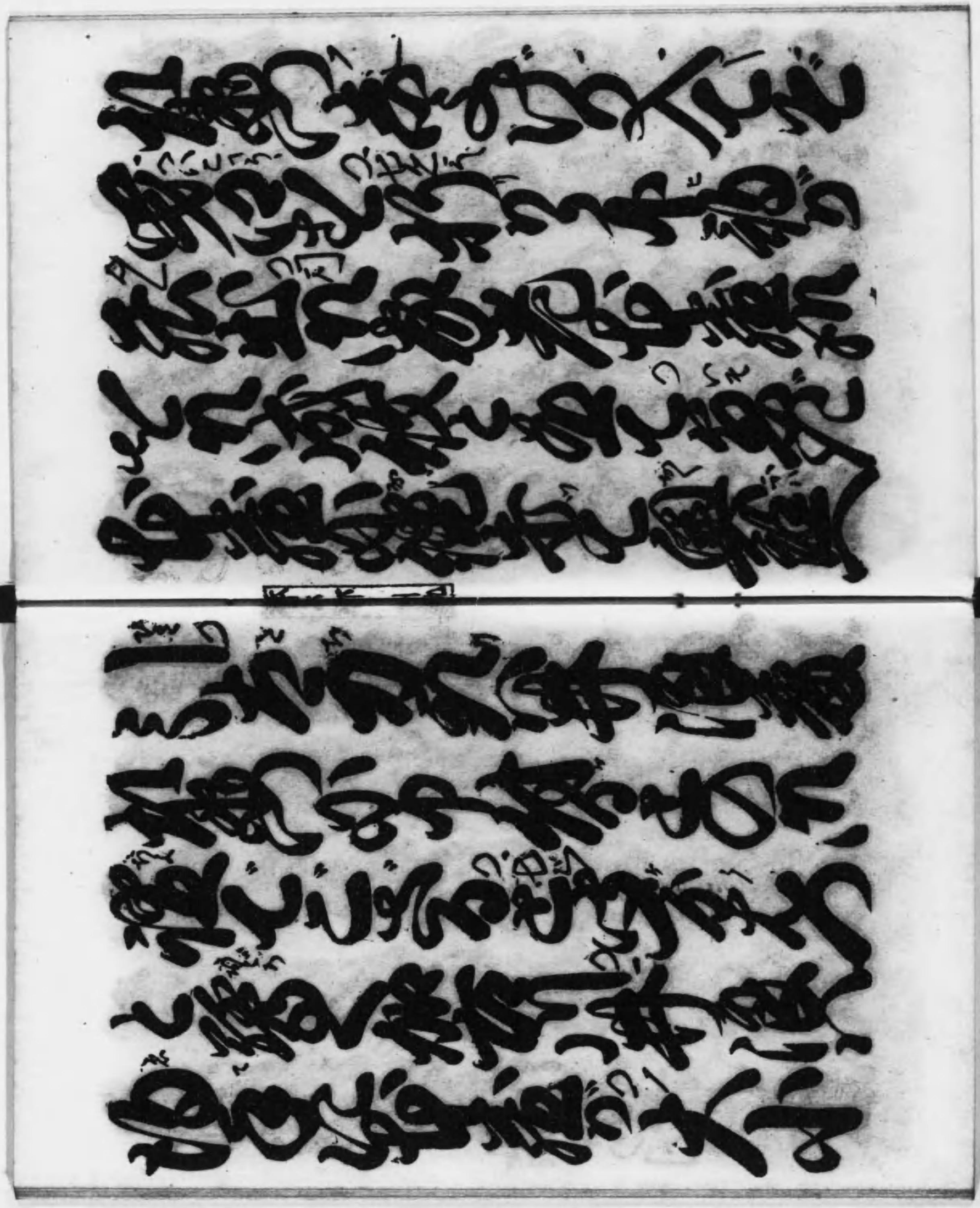
竹ぶぐつ
の丸ぐつ
ごぶうまぶり
ちゃぶ
ぬりぐつ
ぬりわらぐつ

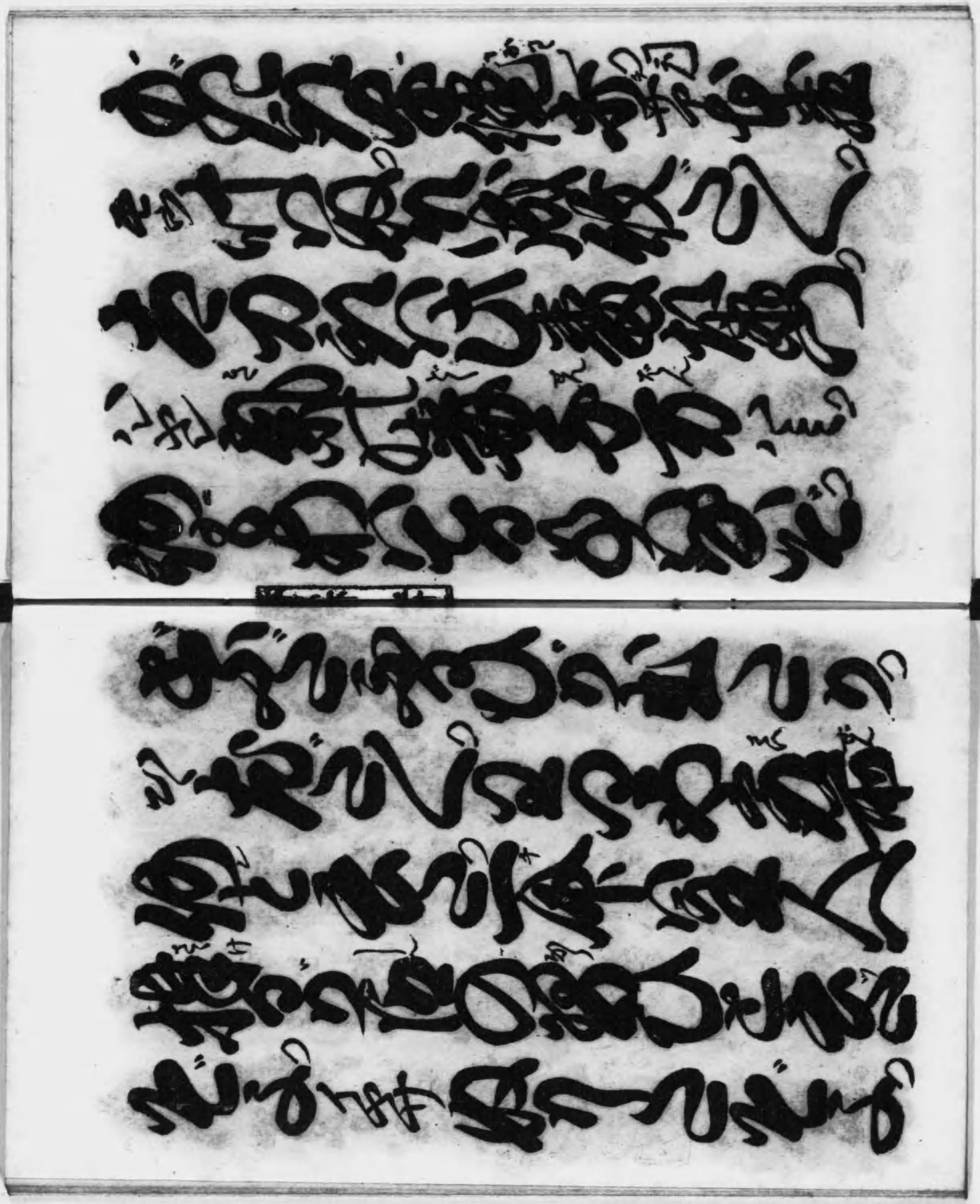
ちょっとあぶ
上ぶぐつ
ぶるぶく
ごぶぐつ
雑面ぶ

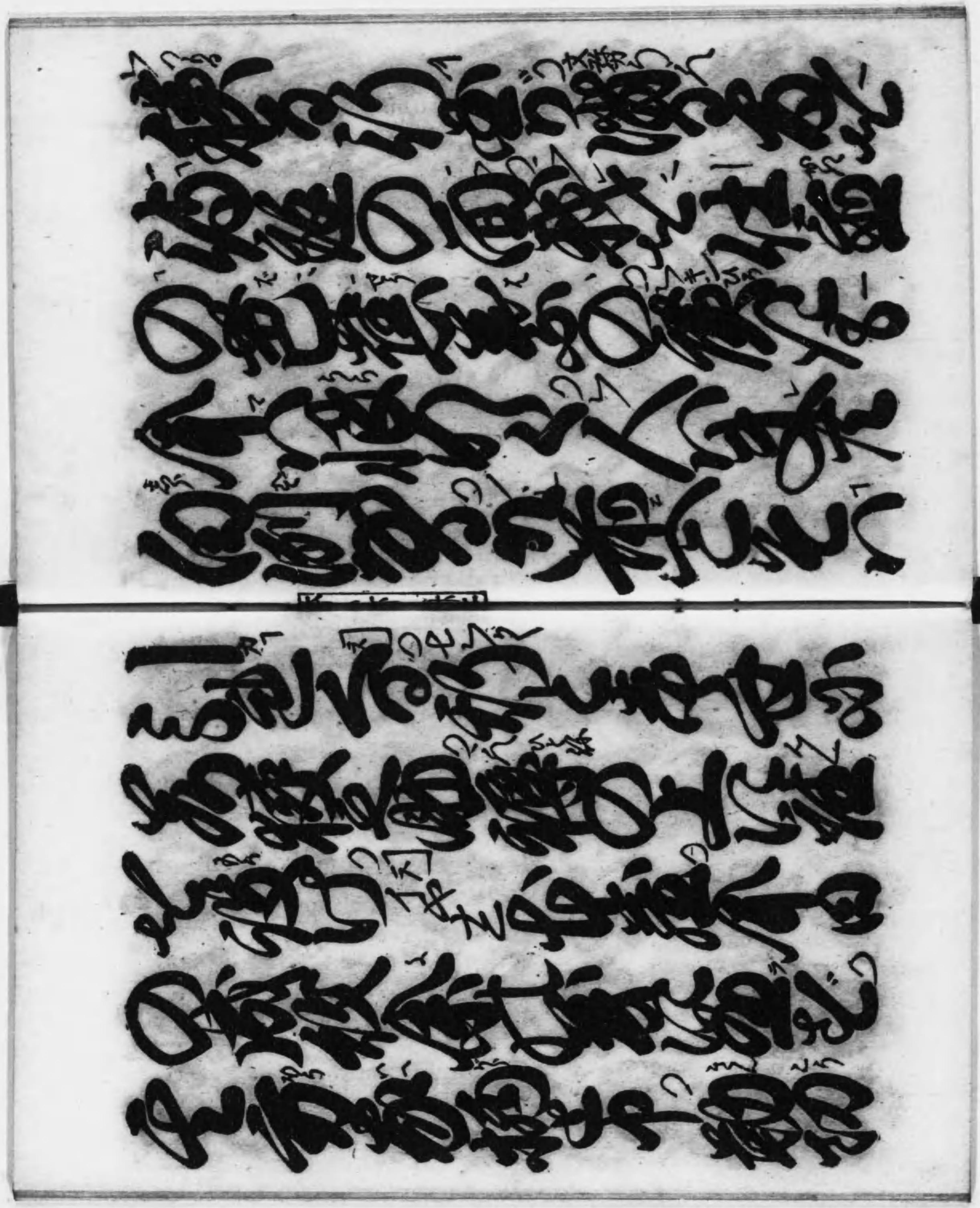


中歳の春の清水
あれ老の秋の紅葉
ちるを人の
こゝろ
月の
雲
金銀
弾
士の
ちゝ
人の
ちゝ



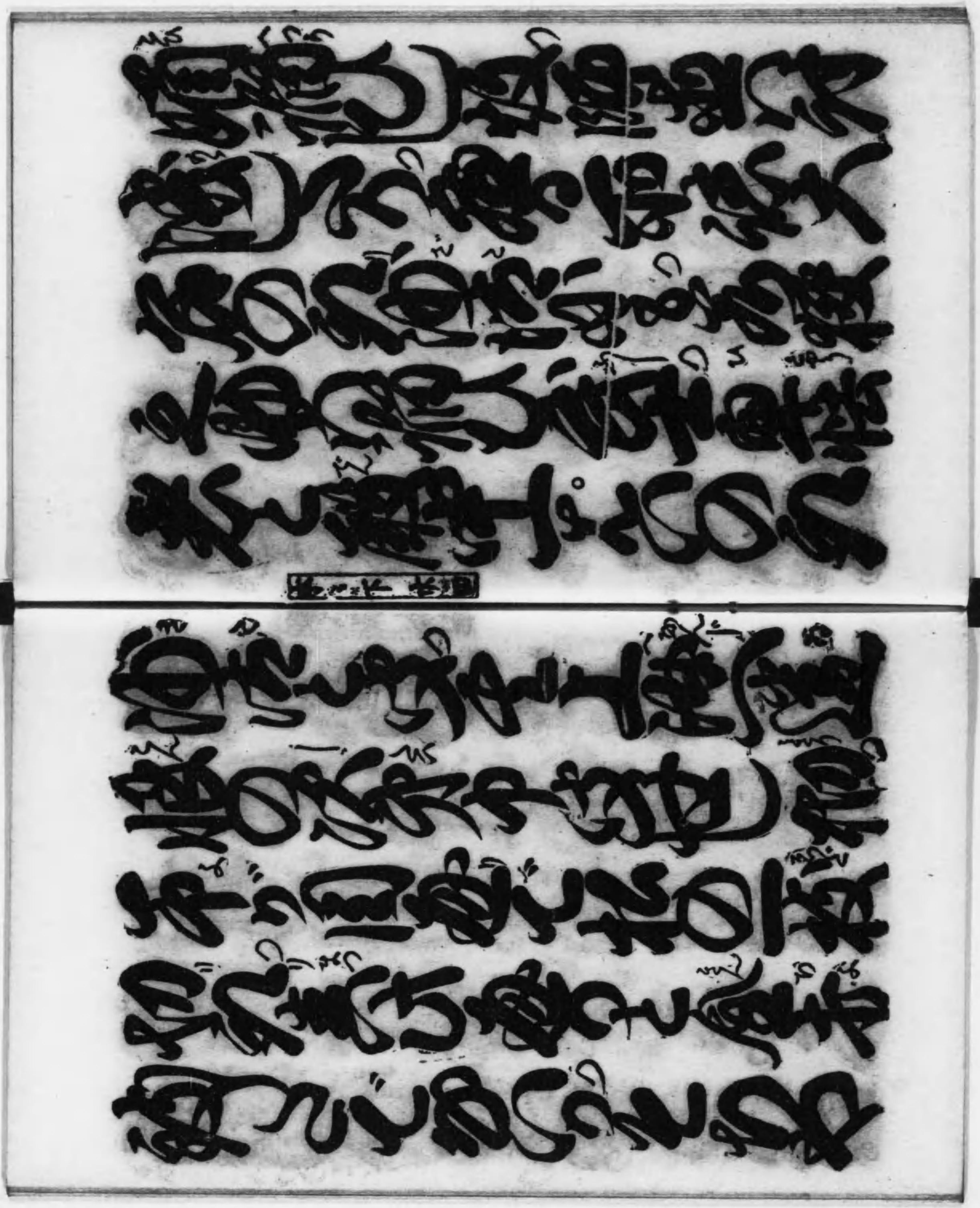


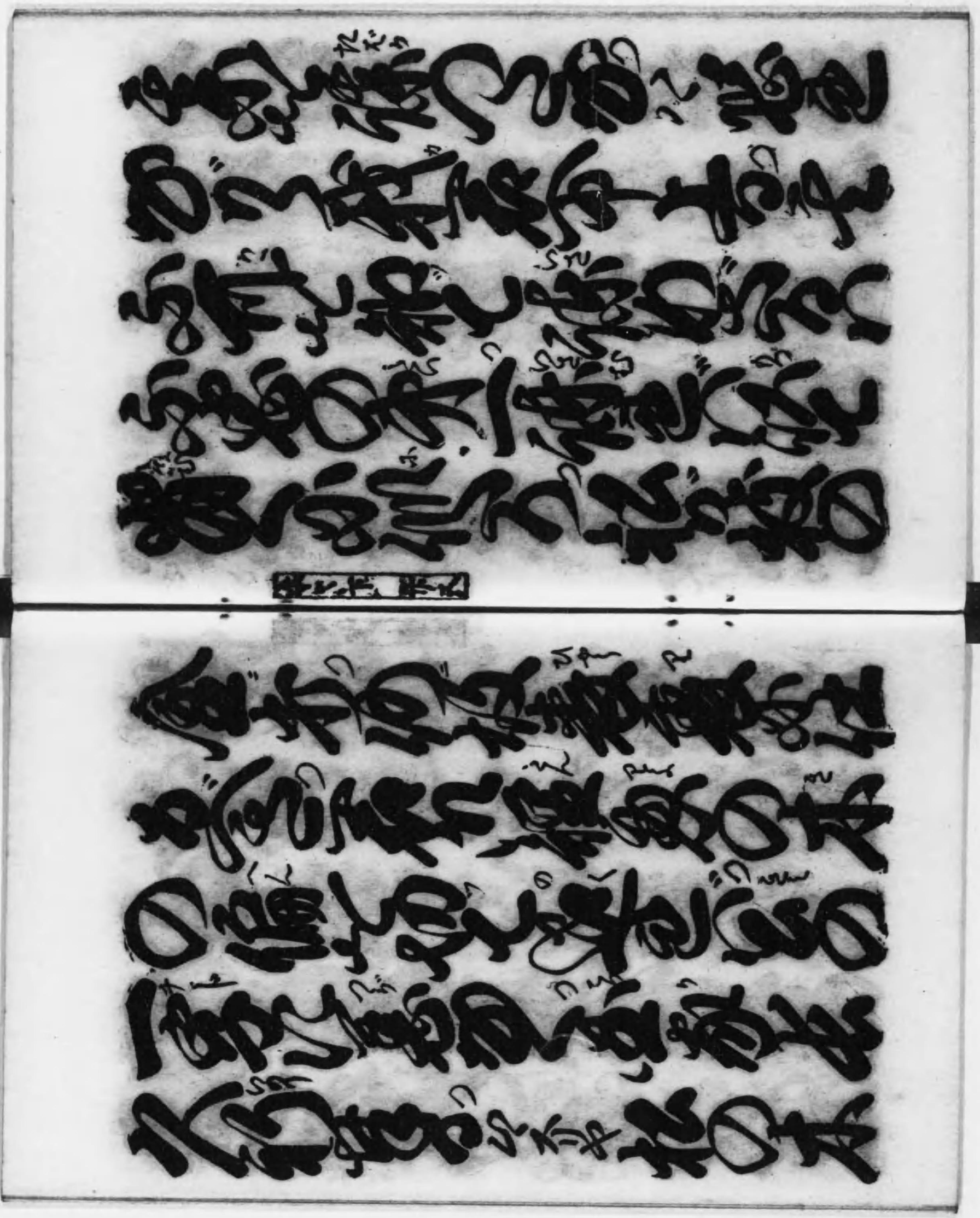


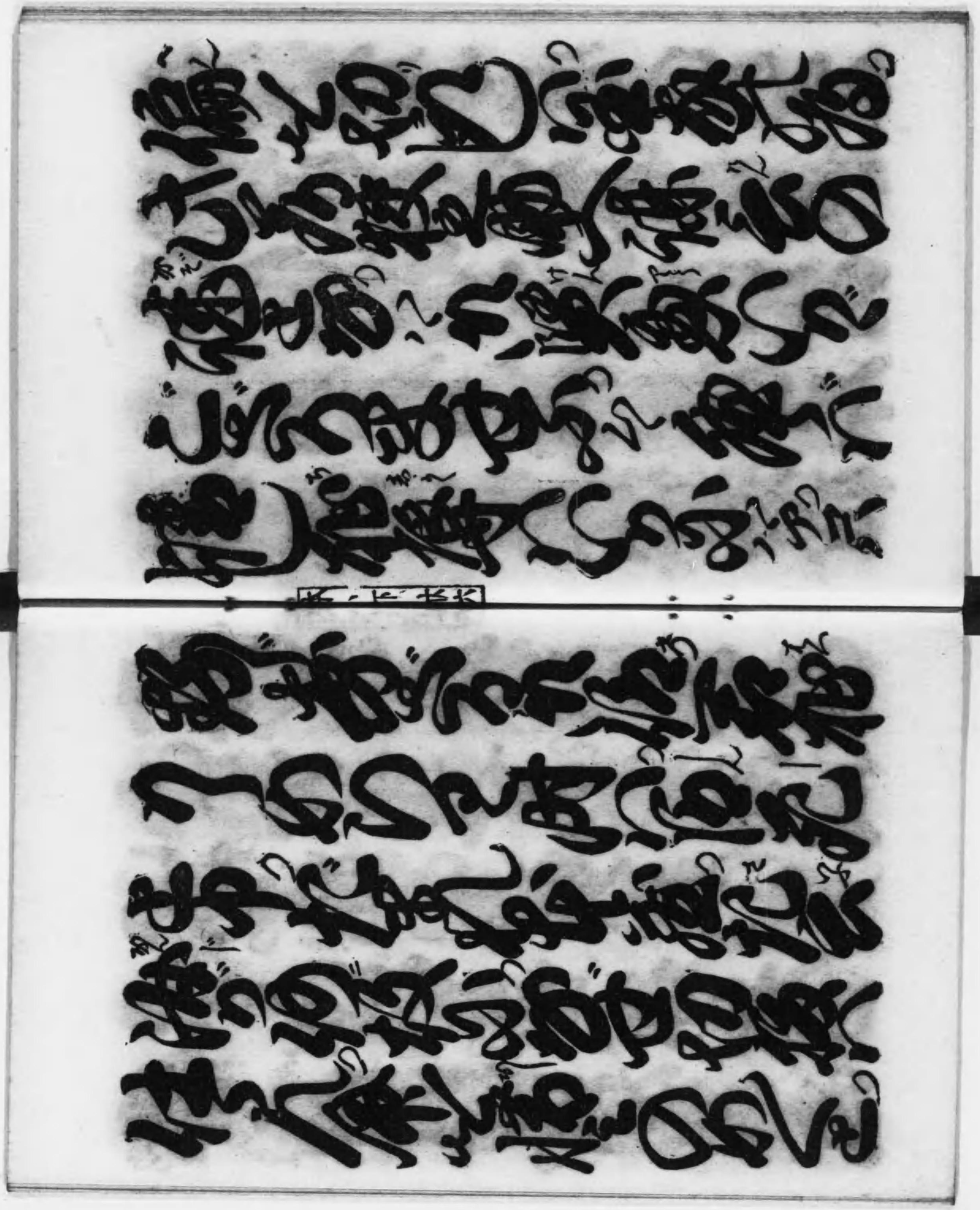


かめでも先祖より家光
職勤して都ゟ右
存知ゑ行ふ猶ゟ無事
能力頭参勤中も
師並ゑ其一万物様

人々尽して無き方ゟ似
以手前毛頭非の道
云コハなどもとあらじ
海陣道が為出
ふれ発欲を至道







中毒イヤモノ
ゆかの上野
仕立の雑巾
黒くよごれ
手と顔ども
真っ赤になり
ゆかの上野
黒くよごれ
手と顔ども
真っ赤になり
ゆかの上野
黒くよごれ
手と顔ども
真っ赤になり
ゆかの上野
黒くよごれ
手と顔ども
真っ赤になり
ゆかの上野
黒くよごれ
手と顔ども
真っ赤になり
ゆかの上野
黒くよごれ
手と顔ども
真っ赤になり
ゆかの上野
黒くよごれ
手と顔ども
真っ赤になり
ゆかの上野
黒くよごれ
手と顔ども
真っ赤になり

[illegible]

男ごそれ
なる麻衣
そまを垂て
ごろの浮世の物
かれ雪の時絹べ
は帰男の
紙上に成て
紙上に見る春

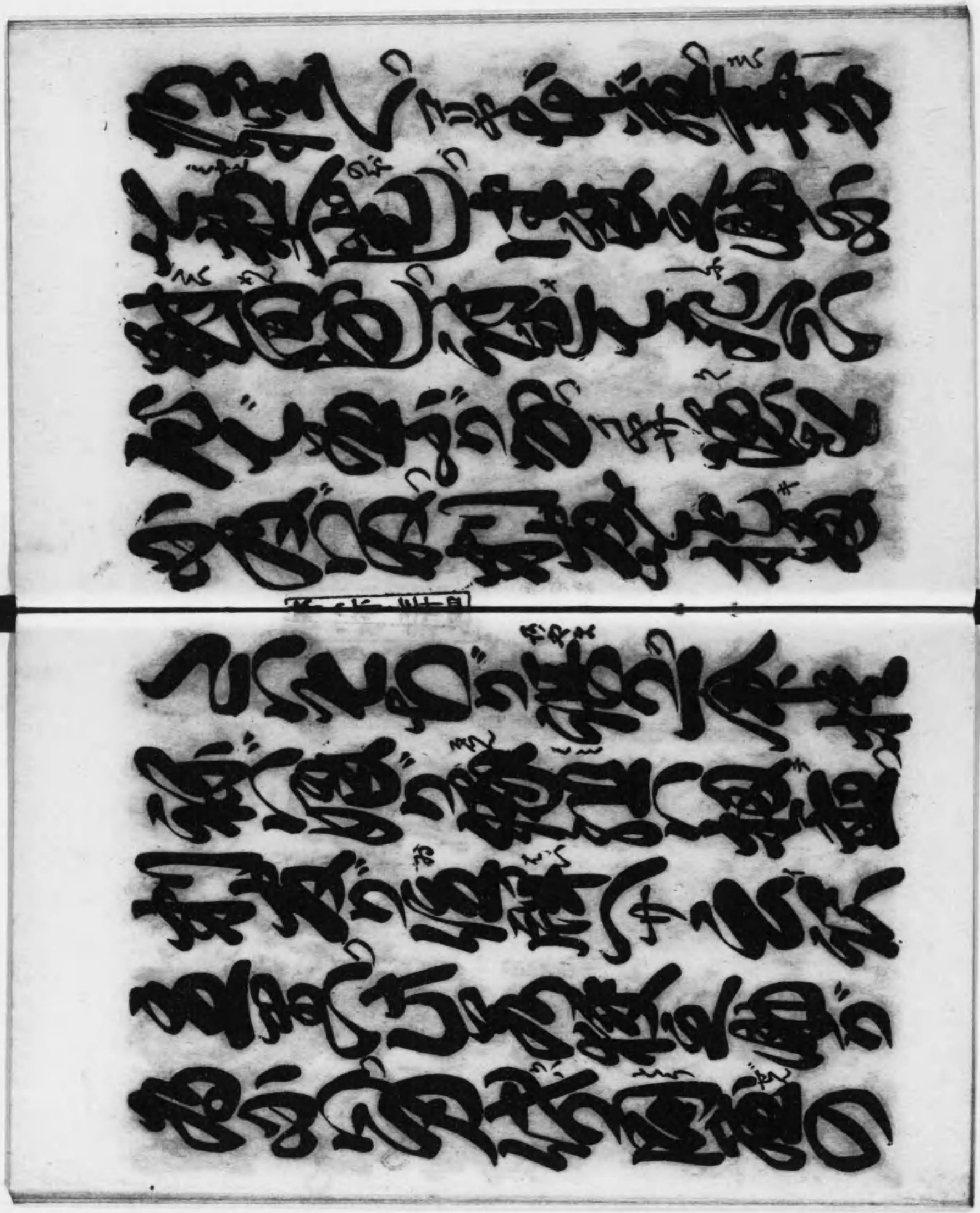
井隠春雨そ降と
ちが先ほるる
さべて春雨人
雨春雨ふる仕事の
いりのそ時や雨

余人の為にとゝまる事なし
が本様をこゝろもとなし
凡人あるべく
強盗の業をしつ
れば光陰の
行はやきなり

家業をつとめ
こゝろまことに
本形をもて
あるべきなり
とゝまる事なし
くれば果はなし

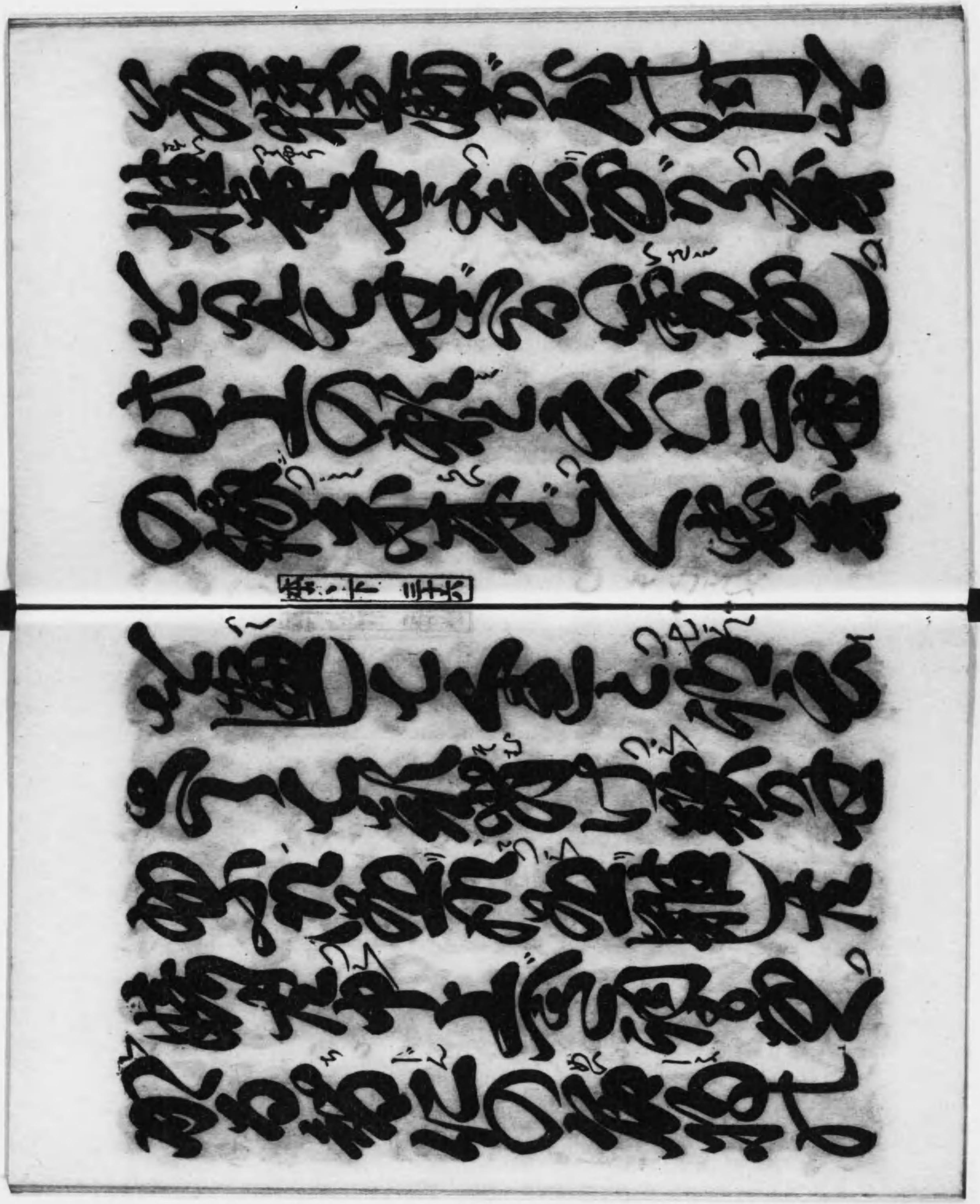
大悪国の人形会
イヤ文ぶ文ぶ
こりゃ天狗でゝけいこ
ちんとんしゃんと
月のかつらの糸

とものこゝろ和訳
会と撥とる撥とる
どいとものこゝろ
あるかなかるこゝろ
中義勝の人



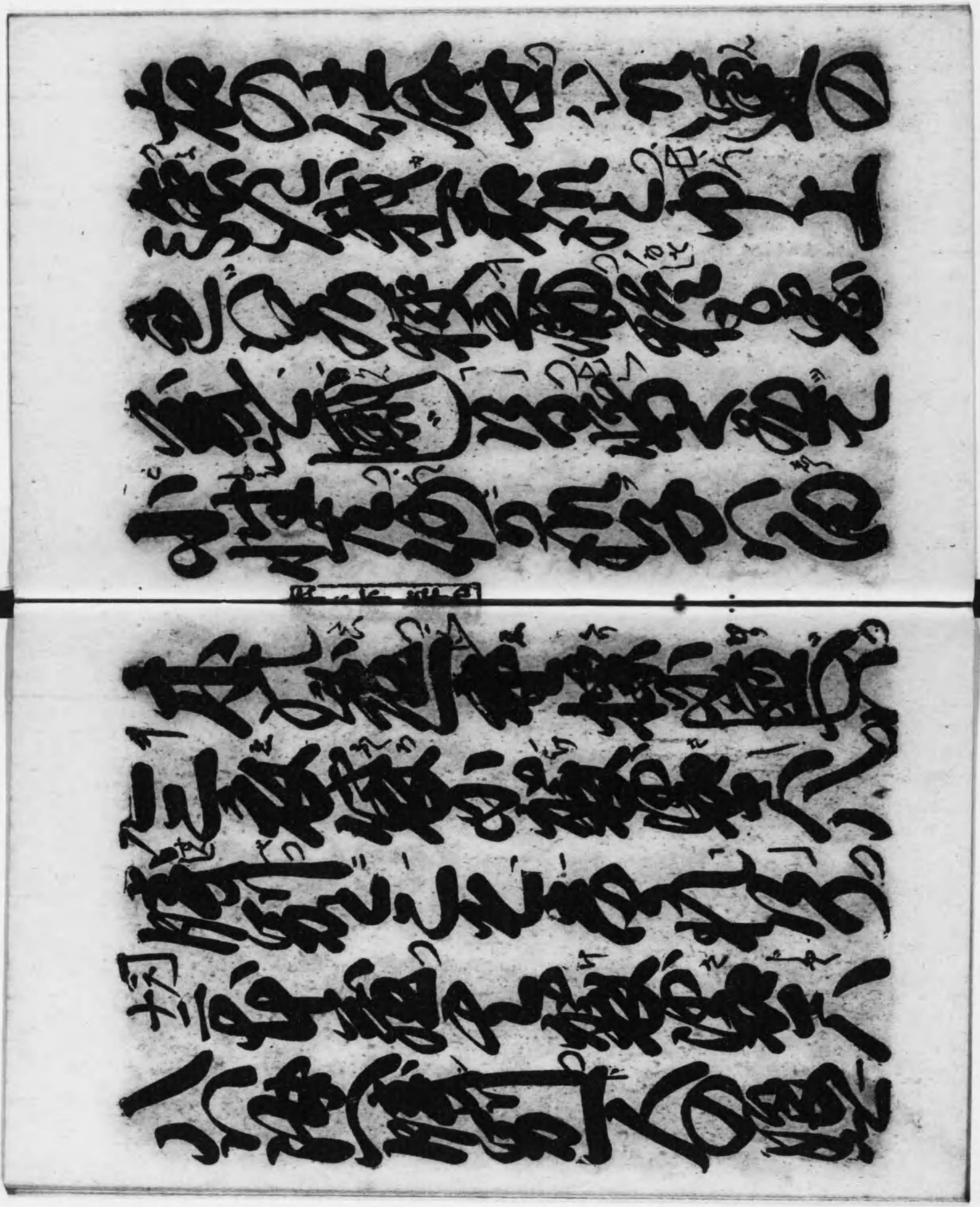
利益無量
四恩厚
ふかき海が
つゝまる者ハ
ゞ十二獅
ふくまるの利益が

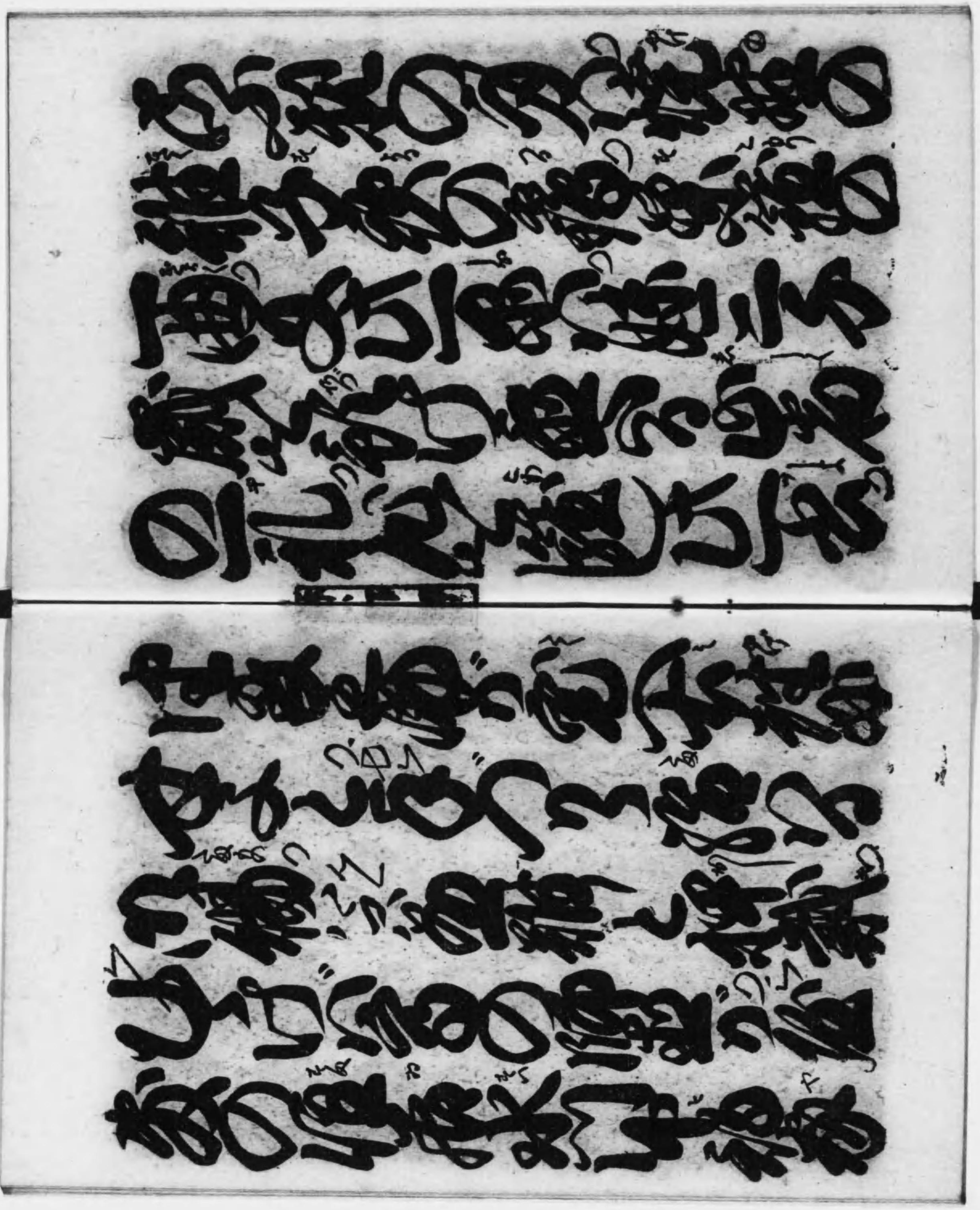
今の世の人事の
夢のうつゝ幻
さゞまつるとりが
蛙いそぐよ
ケ様の家オ

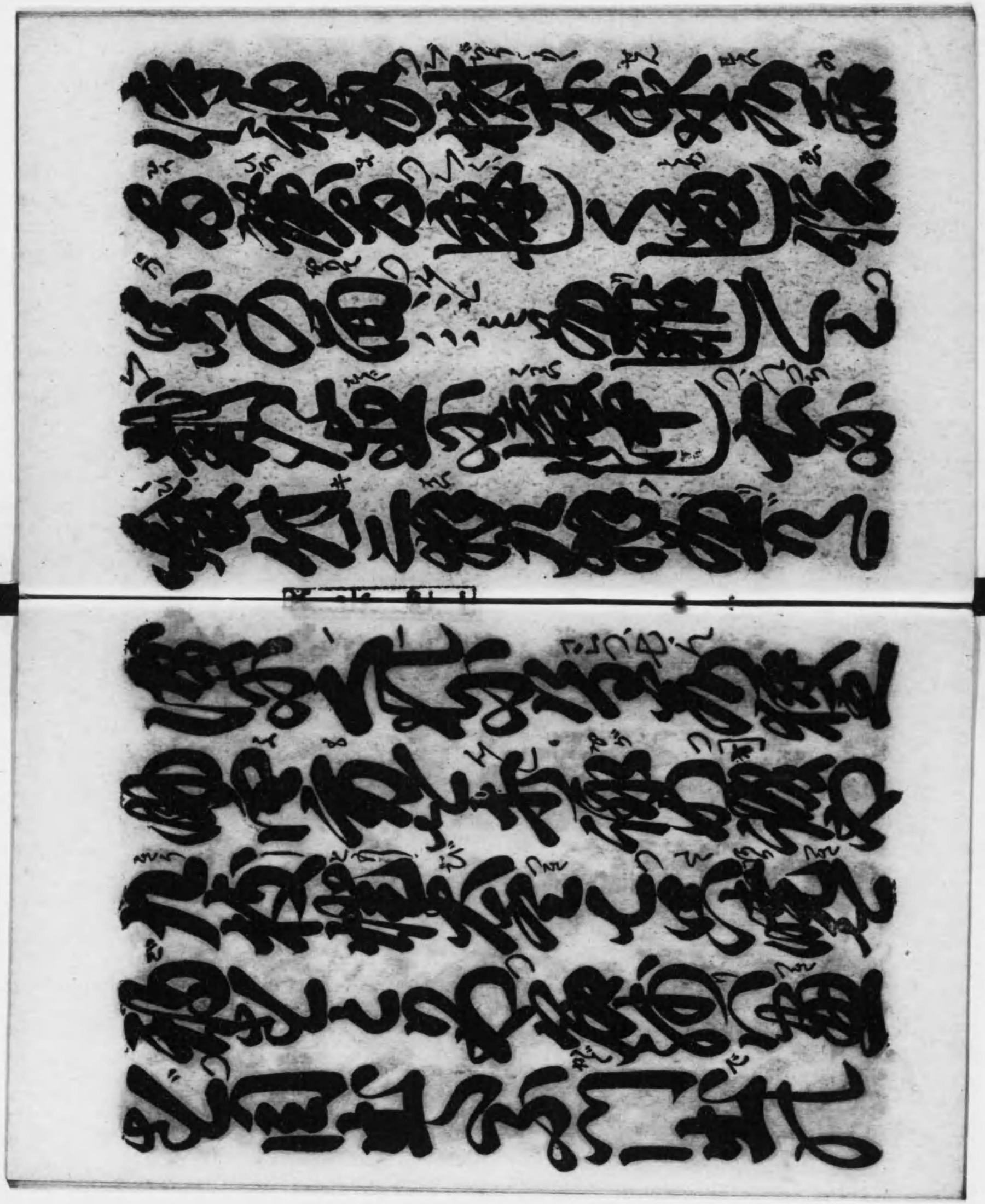


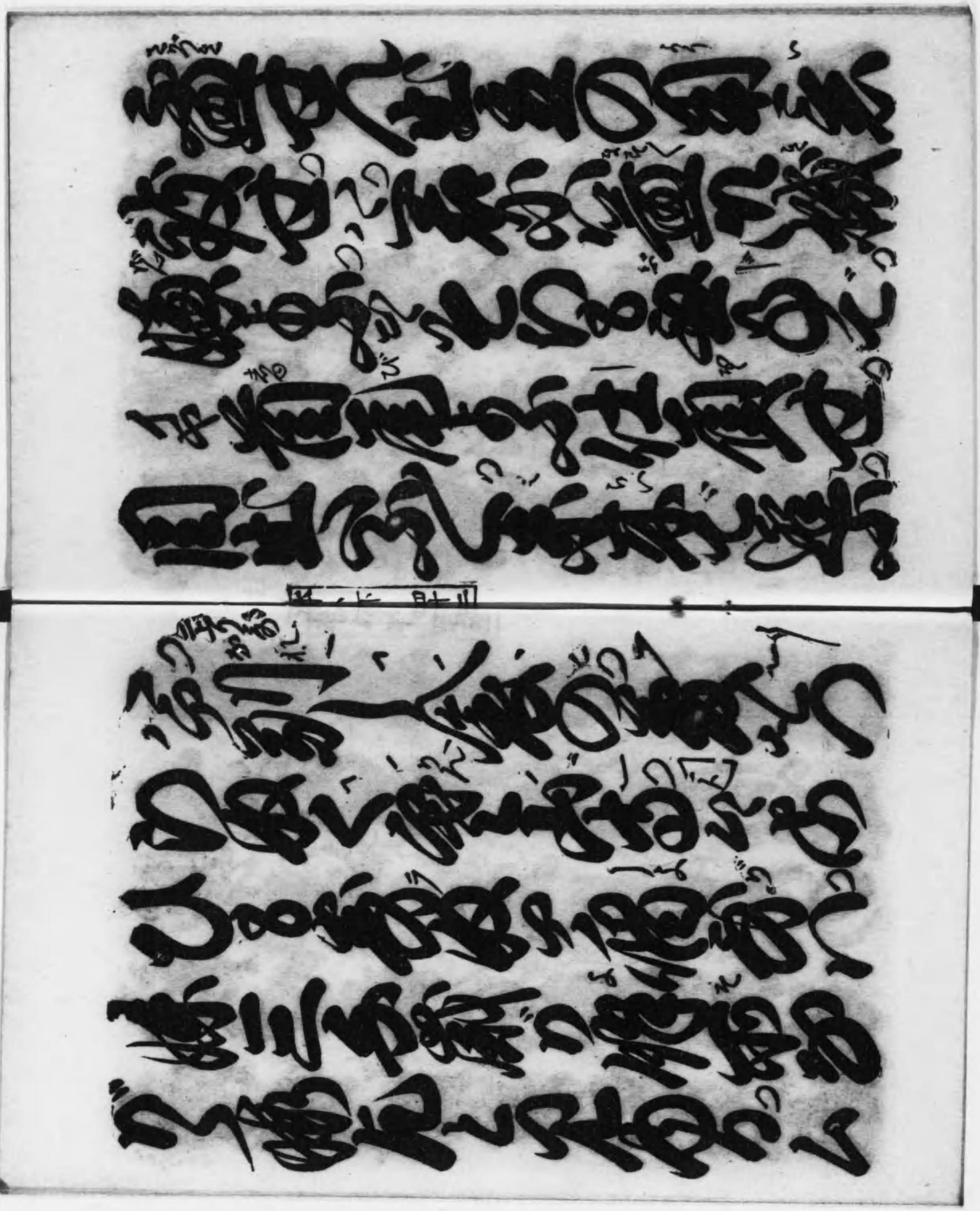
れる光ぞ
うつるべ
ぬ理と悟ふ
ふ忠ふ義
の光兆と
歌の上は
まれば解

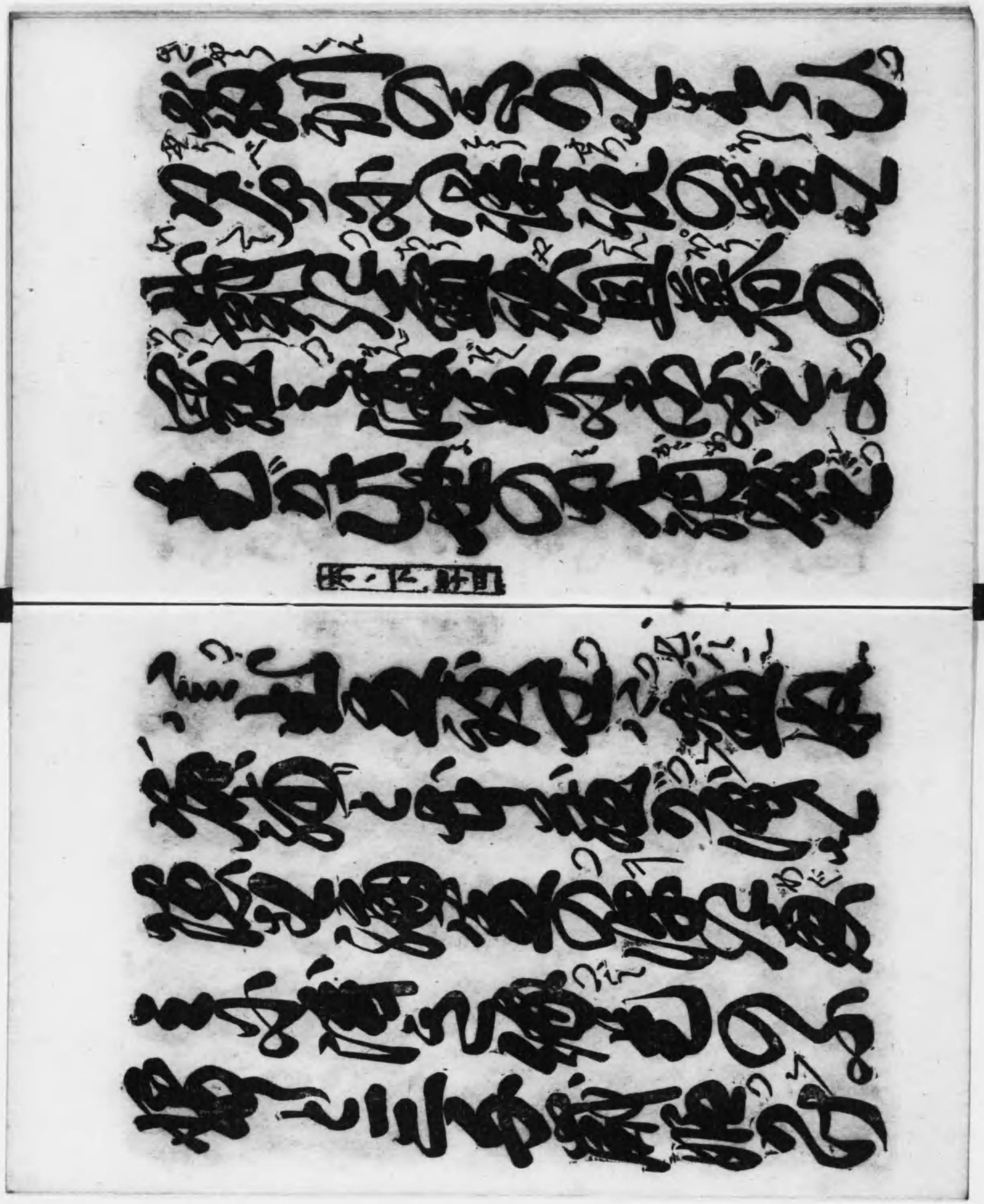
花の
枝の
小菊
つ
中
かの
流
酒
月
木
雅
元











331
89

昭和五年六月六日印刷
昭和五年六月十五日發行

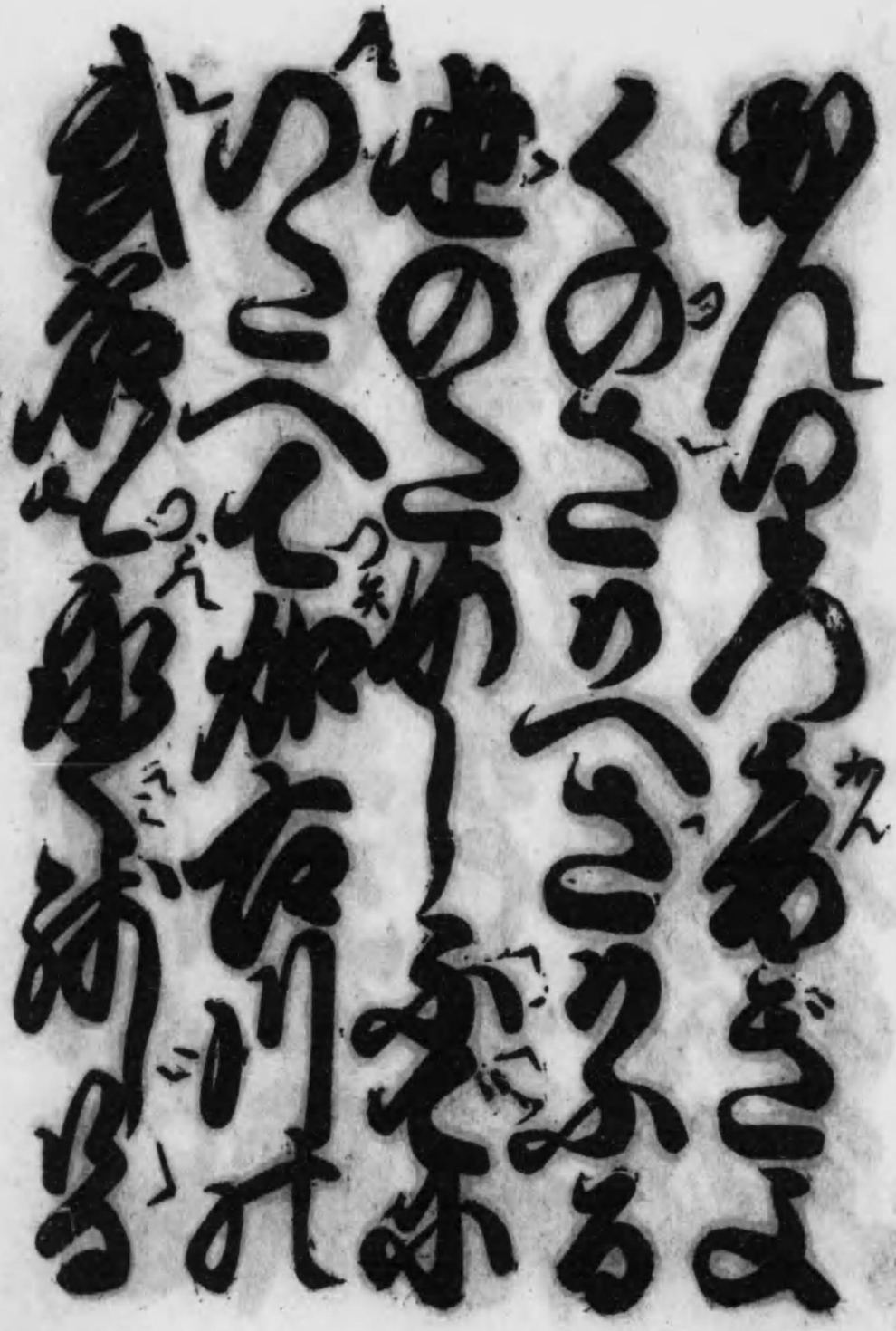
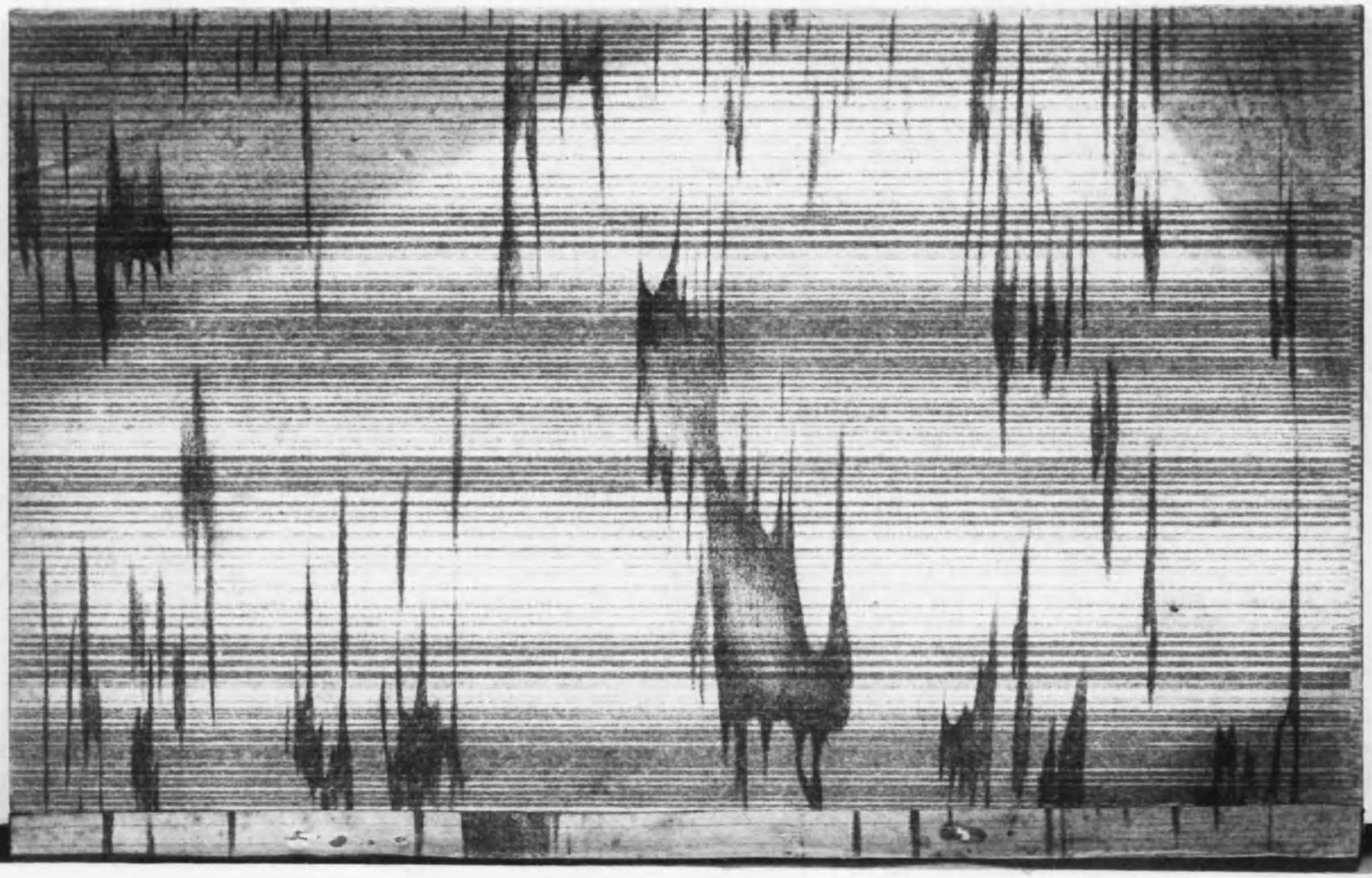
稽古本
義士忠臣蔵

編輯者　玉井清文堂編輯部

發行者　東京市神田區表神保町十番地
玉井清五郎

印刷者

發行所　東京市神田區表神保町一〇
電話神田二三三三番
振替東京三二八番
玉井清文堂

不許複製

（清文堂印刷部印行）